

鉄骨工事 Q&A	鉄骨建方	柱の倒れ精度管理	制定	2021年5月1日
			改訂	

Q. 鉄骨柱の倒れの精度管理のタイミングと精度管理値について教えてください

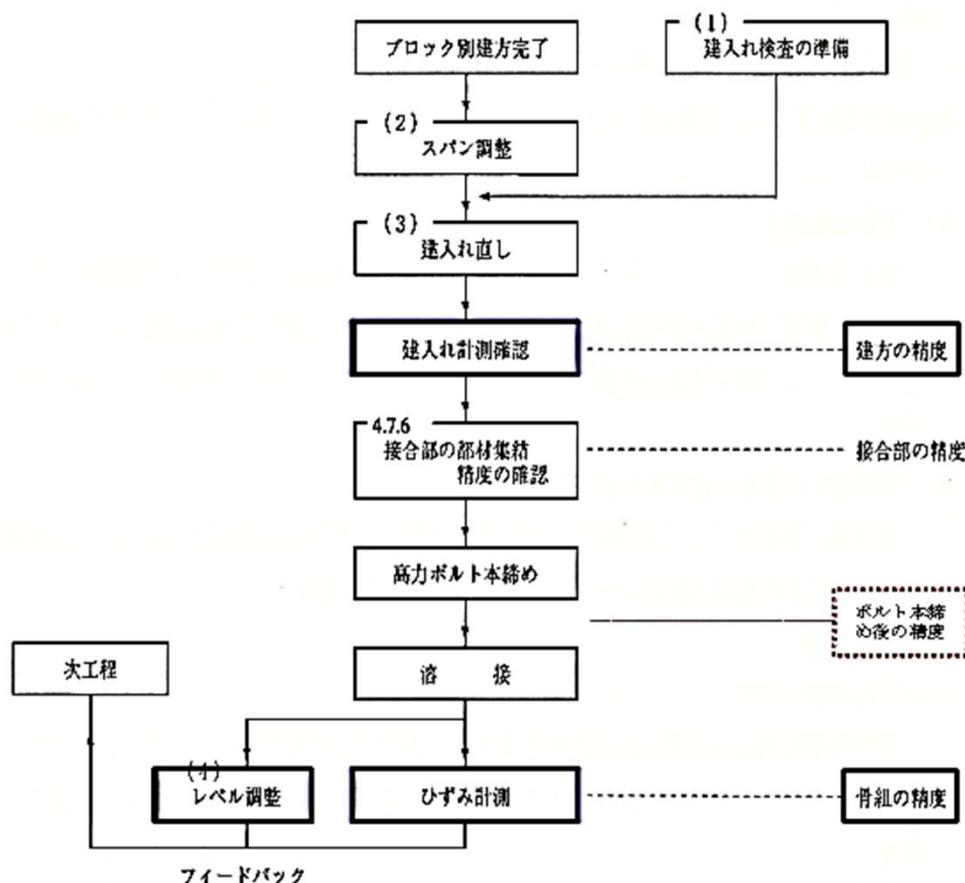
A.

鉄骨工事技術指針・工事現場施工編では、鉄骨架構全般の精度の測定は、建入れ直し後の「建方の精度」と、高力ボルトを本締めし、溶接完了後の「骨組の精度」の2段階で測定することを基本としています(下図参照)。

実際には、ボルト本締め終了後直ちに現場溶接が開始されたり、また比較的小規模な現場等では現場鉄骨作業が錯綜していたりすると、ボルト本締め後や溶接終了後の鉄骨全般の精度を測定することは一般的には困難となります。

しかしながら、建方作業・工程を工夫し(例えば小ブロック分けして鉄骨建方を行う等)、「ボルト本締め後の精度」や「溶接終了後の精度」の測定を苦労して行っているケースも少なからずあります。この場合、建入れ直し⇒ボルト本締め⇒溶接に伴う精度の変動を把握して、その後(以降の節)の鉄骨建方へフィードバックできること、ボルト本締め後の精度測定で精度不良が見つかった場合あるいは予想される場合に修正が可能なことから、溶接終了後の精度不良発生リスクを多少とも減らすことができます。

鉄骨柱の倒れの精度管理値については、建入れ直し時の管理値を、管理許容差とし、ボルト本締め後、溶接完了後の精度管理値は、限界許容差により管理する場合があります。



骨組の精度確保の順序(鉄骨工事技術指針・工事現場施工編より)

出典: (一社)日本建築学会 鉄骨工事技術指針・工事現場施工編、2018